

体験と視点取得との関係に関する研究

早坂 美優

人との関わり方が多様化している現代では、他者の視点に立ってその他者の気持ちを考える視点取得が重要である。これまでに物語への没入体験やロールプレイング体験、自然体験の量が視点取得の高さと関連があることが示されているが、その他の体験との関連や疑似体験（読書やゲーム）、直接体験（キャンプや学校行事）、間接体験（テレビ視聴や SNS）ごとの関連は明らかになっていない。また、受け手（自分が体験中何かを受け取る立場）、送り手（自分が発信者の立場）としての一人称（主観）、二人称（相手視点）、三人称（第三者視点）の視点ごとの関連は明らかになっていない。

そこで本研究では、どのような体験によって視点取得が高まり得るのかについて明らかにすることを目的とし、2つの研究課題を設定し、調査を行った。研究課題1はさまざまな体験と視点取得の関連性を明らかにすることとした。研究課題2は視点別の体験と視点取得の関連性を明らかにすることとした。

大学生を対象に視点取得、体験（疑似体験・直接体験・間接体験）の頻度、さらに各体験に含まれる個々の体験（例：疑似体験における読書やゲーム）の種類、受け手・送り手としての視点別の体験頻度についてオンライン調査を行い、200名から回答を得た。

研究課題1についての分析の結果、直接体験の1つである「社会・文化的体験」と視点取得に正の相関が見られ、社会・文化的体験の頻度が多いほど視点取得が高くなることが示された。研究課題2についての分析の結果、受け手としての疑似体験・直接体験・間接体験におけるすべての個々の体験と視点取得に正の相関が見られ、受け手としての視点ごとの体験頻度が多いほど視点取得が高くなることが示された。一方、送り手としては、直接体験と間接体験の一部の頻度と視点取得に正の相関が見られ、「自然体験」「社会・文化的体験」「SNS」での送り手としての視点ごとの体験頻度が多いほど視点取得が高くなることが示された。

視点取得と体験の頻度に直接的な関わりはほとんど見られなかったが、視点取得と受け手・送り手としての視点ごとの体験頻度には関わりが見られたことから、視点取得の獲得には受け手・送り手としての視点ごとの体験頻度が重要である可能性が示唆された。本研究では相関分析のみ行ったため、今後は因果関係の検討が望まれる。

（指導教員 鈴木 佳苗）